

付録資料4 映画会

1. アンケート～映画を見ての感想

- ・みんなの笑顔が印象的でした
- ・少しでも人のために役立つことができればいいなと思いました。
- ・非常に良かったです。人のために何ができるか?その人が本当にやりたいことができているのか?自分はまだまだやなと思いました。今の気持ちを忘れんようにと自分へ!
- ・初めて「普通に生きる」の映画を見させていただきました。とても感動しました。僕が思ったことは、地域の人たちとのつながりや触れ合いがあるからこそやってこれたんだと思ったし、職員さんだけでなく、親の助けがあることを大切だと思いました。それこそがやって来れてるんだと実感しました。
- ・内容もよく自分が日ごろ生活(仕事)していることの中で見直しや新しく考えるなどよかったです。
- ・利用者の自立これは常に考えていきたいです。今後このような映画を普段障害者と接することのない健常者の方々へ見ていただきたいと思いました。今日はありがとうございました。
- ・たくさんの子供たちに見てほしい。
- ・障害児だけでなく、その親も普通に生きることが必要で、日中活動により双方が楽しく充実した生活を送ることが大切だと思いました。
- ・自立のために前向きな考えが政治をも動かすことに感動した。
- ・保護者が動き出すとニーズが分かっているので、流石展開が早いなあと思いました。
- ・地域のつながり、地域交流とっても勉強になりました。”
- ・誰の介護でも受けることができるようになることの大切さを感じると共に、誰でも助けを求めることができたり、それを受けいれたりすることがたいせつだな～と感じました。
- ・人に接するとき、地域の行事に参加するときの表情の豊かさを実感し、地域で生活する意味、その人の力になる。また周囲の人の力もつけていると感じた。
- ・「普通に生きる」当たり前の権利が全ての人に共通にあるということが再認識できました。宇和島でもこのようなことが語られ、支えられる仕組みが欲しいと感じました。
- ・とにかくすごい!理想です。障害のある娘は子ども→大人へ成長する姿を想像することができました。自分たちの町にもらぼーとみたいな所が欲しいです。
- ・もっともっと皆さんに見てもらいたい。みんな一緒に生きているから。
- ・重度の障害があっても地域で普通に生活し自立できるように支援することの大切さを感じました。
- ・難病で苦しんでいる人たちも忘れないでください。
- ・家族の人たちの前向きの生き方が、すごいと思いました。
- ・障害のある人の笑顔が素敵でした。”
- ・映画を通して重症心身障害児者と触れ合ってみたいと思った。
- ・普通に生きるとは…考えさせられ、学ばしてもらったと思います。次につなげてゆかねばと思っています。
- ・みんなの笑顔が印象的でした。障害を持つ子供の親としては、また障害児者の療育に関わるものとして、もっともっと子供や利用者様の『笑顔』が見られるかわりをしなければと強く思いました。
- ・重心者であるからでもなく、特別と思うことなく、ありのまま、あるがまま、自分らしく、支える人

として、かわりを持てる人、周りのいろいろな立場で身に置き換えて、一つ大切に感じたのは、気に留める、目を留める、私なりに大切な関心を持ち続けて、大切に育てていく『心』気持ちのつながりを思います。情報ということは大事だな、発信するって大切だな、もっといろいろなことが伝わりつながることを願ってやまない大切な映像でした。

- ・重症児者の方々、一人一人が自立するために、日々の生活から努力する姿を見て、自分にも何かできることがあるのではないかと思います。
- ・重心の方も、施設で働く方も、家族の方も笑顔が晴れやかで印象的でした。
- ・障害者も健常者も同じ権利を持っている。障害者に関わる保護者の力は凄いとしました。この映画を澤山の人に見てもらいたい。
- ・素晴らしい笑顔が映っていて私自身も気持ちが豊かになりました。どんな状況に生まれても意味があるのですね。彼らと家族の姿に勇気をもらいました。
- ・普通とは何ぞやと考えさせられる映画でした。100人の人がいれば100通りの普通があるのではないかと思います。
- ・初めて障害者、ご家族、支える人々の大変さを目にしました。でもひとりひとりがいきいきとされている姿、力強さに、自分の姿を反省する思いです。
- ・障害を持つ人たちも親と共にいきいきと生活しているのがとてもすてきでした。私も仕事ではありますが、障害を持つ人たちと少しずつ成長させてもらっています。そういう日々を地域の人たちにも見てほしい。これが私たちの役目でもあると思っています。
- ・宇和島市にも必要なサービス、社会資源を…。行政や地域の理解の必要性。親離れ、子離れそれぞれが共に自立が必要。

ドキュメンタリー映画

普通に生きる ~自立を目指して~

上映会 in 宇和島



入場
無料

「どんなに重い障がいがあっても、地域の中で普通に生きてゆける社会をつくる」

親たちはこの理念を信じてまっすぐに進んだ。

静岡県富士市にある生活介護事業所であとは、『どんなに重い障害を持っていても、本人もその家族も普通に生きてゆける社会をめざす』という理念のもと、親たちの努力で、ゼロから立ち上げた重症心身障害児者のための通所施設である。

日時:平成26年3月9日(日)

1回目 13:00~ 2回目 15:00~

開場 (12:30~) (14:45~)

定員:各回30名(申込み制)

場所:

宇和島市障害者福祉センターむつみ荘

宇和島市御殿町8-19

費用:無料

主催:社会福祉法人旭川荘 南愛媛療育センター

この上映会は厚生労働省の平成25年度重症心身障害児者の地域生活モデル事業の一環として行われます。

「普通に生きる~自立をめざして~」公式ホームページ<http://www.motherbird.net/~ikiru>

映画会チラシ (表)

これは重症心身障害児者とそれを支える方々の努力と成果のドキュメンタリー
という枠を超えて、より人に深い感動を与える作品だと思いました。(40代女性)

重症児の多くは、嚥下障害、呼吸障害等のため、日常的な介護として経管栄養、痰の吸引、酸素吸入等の医療的ケアを必要とする。そのため、でらーとには生活支援員の他に看護師も常勤し、毎日、それぞれの障害や個性に合わせたプログラムで日中活動を支援している。利用者は多くの人や地域との関わりの中で、社会性を身につけ、誰からも介護を受けられるように成長してゆく。そして親たちも、法制度の改革の波に揉まれつつも行政に働きかけ、自分たちのニーズにあった制度や施設づくりを行い続けてきた。いずれは親も子もそれぞれの人生を明るく送れる地域社会づくりを目指して、『福祉の受け手から担い手となる』発想が、親たちの新しい未来を切り拓いてきた。

映画は、2つ目の施設建設計画が持ち上がった頃からの5年間を追う。



障害者のこと、特に、重症心身障害者のことを、あまり知らない人たちに、この映画を見ていただきたい。「障害者はかわいそう」、「障害者は、家族を不幸にする」、「障害者は何もできない」、「重度の障害者に自立なんてありえない」、「障害者は入所施設で暮らすのが幸せだ」、「障害者のめんどうは家族が見るのが当然」といった思い込みが、いっぺんに変わってしまうだろう。また、わが子のことを考えて、地域での支援の施設が欲しいと思いつながらぬ。実現の困難さから、あきらめてしまった障害者の家族にも見てもらいたい。「やればできる」、大きな勇気ももらはずである。

見終わって、いろいろなことを感じる。こんな重い障害を持った人たちが、幸せになってよかったわ、ということだけでは終わらない。この映画は、さらにその先の根源の問題、人間とは何か、人生とは、生きるとは、幸せとは何か、地域のかたに何か、家族とは何か、障害者問題を越えて、もっともっと大事なことを教えてくれる。教えてくれるのは、ものも言えない、自分では動けない身体の彼ら重症心身障害者が地域で生きる姿である。そこまで我々を導いてくれる、この映画に乾杯。
(神奈川県大学招聘教授 浅野史郎)

普通、これがどれほど大切なことか。ともすれば老いてゆく身にどうしようもない思いに駆られますが、なんと自分がらっぱな人間であるか。人間としてもっと大切な思いを映画の中から感じることができました。
(70代・女性)

日本を変えることのできる「力」を秘めた作品だと感じました。生きると言うことを再度考えさせられた気がします。ヨヤ、私たちが普通に生活している何気ないことにも注意を向け、これから生きていきたいと思えます。ありがとうございました。
(20代・男性)

僕は、この映画で改めて生きることがとても楽しく、嬉しいことがわかり、障害をもっている子も一生懸命生きていてすごいと思った。
(10代・男性)

障害者と健常者の違いは無いと考えることができた。みんなの笑顔がキレイだった。また、みんなに会いたいな。
(10代・女性)

お問い合わせ、および申し込み先：
映画の鑑賞を希望される方は南受療育センターまで氏名、職業、人数、希望時間をご連絡ください。
社会福祉法人 旭川荘 南受療育センター
TEL：0895-45-1101
(映画「普通に生きる」上映係)

お車でお越しの方は
天教園公園グランド駐車場（伊達博物館横）をご利用下さい。



このチラシは、上映会を主催する南受療育センターが作成しました。

作品に関するお問合せ・配給に関するお問合せはマザーバード TEL&FAX:03-6913-5591まで